

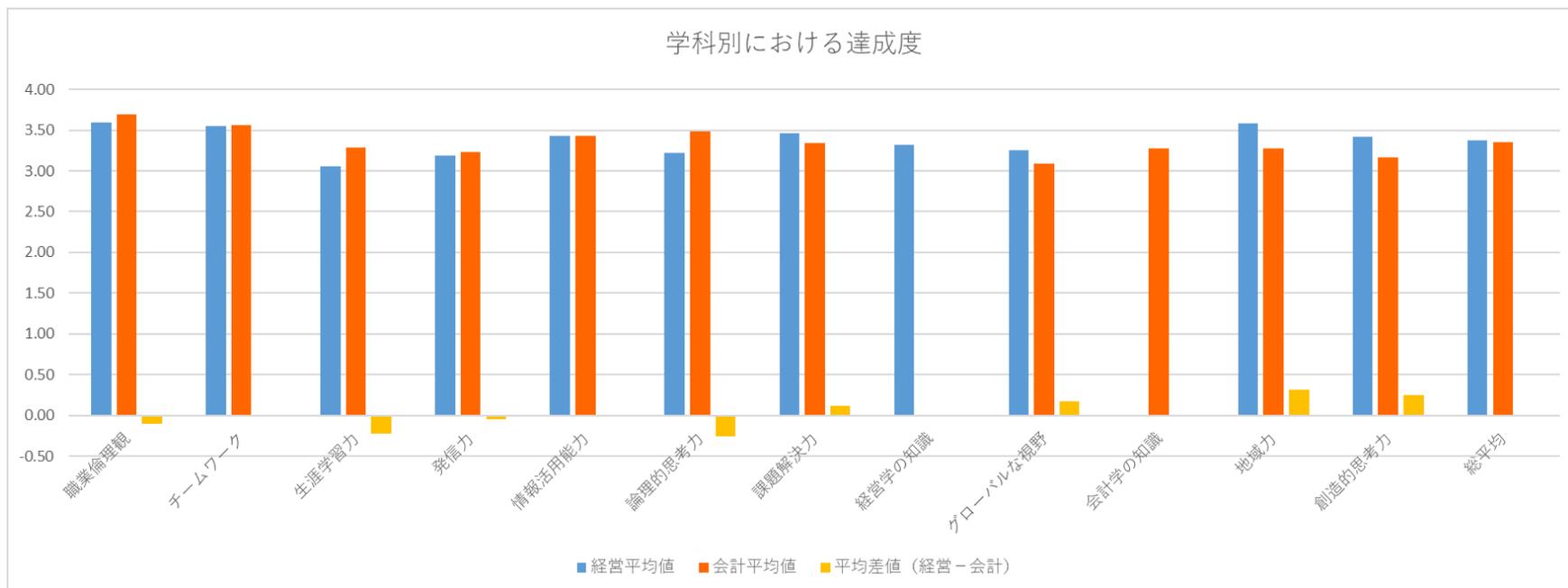
2021年度 ディプロマポリシーに関連した能力に関するルーブリック調査（自己評価アンケート）

対象：商学部4年次

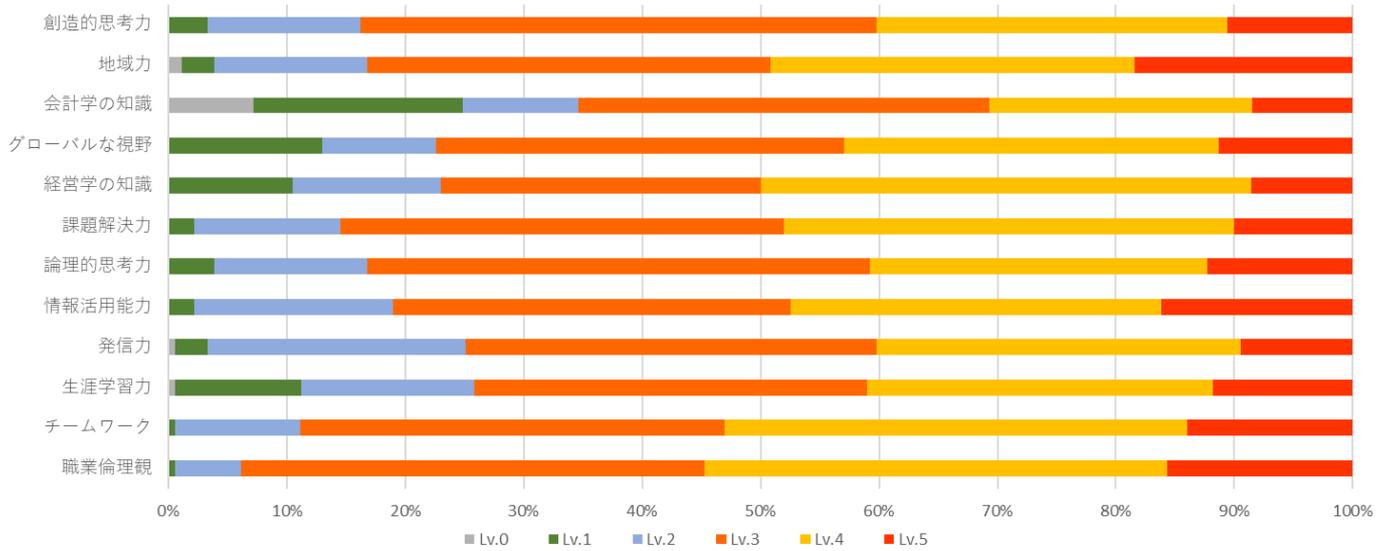
実施時期：卒業年次の1月（2022年1月）

アンケート回収率 95.7% 178名/187名

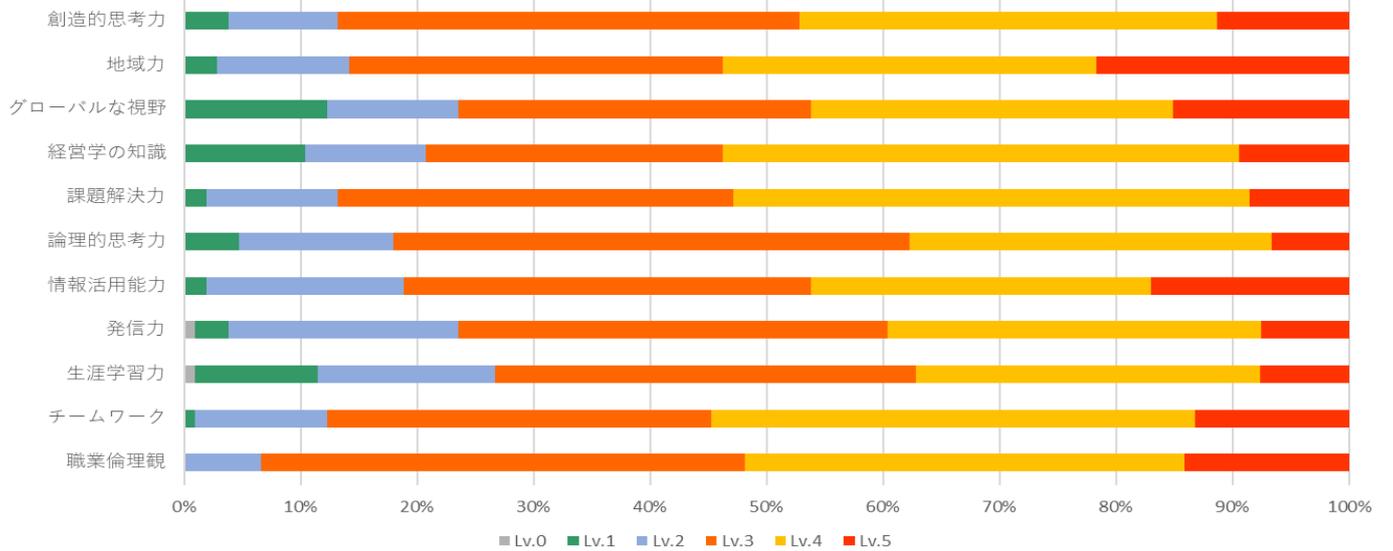
	職業倫理観	チームワーク	生涯学習力	発信力	情報活用能力	論理的思考力	課題解決力	経営学の知識	グローバルな視野	会計学の知識	地域力	創造的思考力	総平均
全体平均値	3.64	3.55	3.15	3.21	3.42	3.32	3.41		3.19		3.46	3.31	3.37
経営平均値	3.59	3.55	3.06	3.19	3.42	3.22	3.46	3.32	3.25		3.58	3.42	3.37
会計平均値	3.70	3.56	3.29	3.23	3.42	3.48	3.34		3.08	3.27	3.27	3.16	3.35
平均差値（経営－会計）	-0.10	-0.01	-0.23	-0.04	0.00	-0.26	0.12		0.17		0.31	0.25	



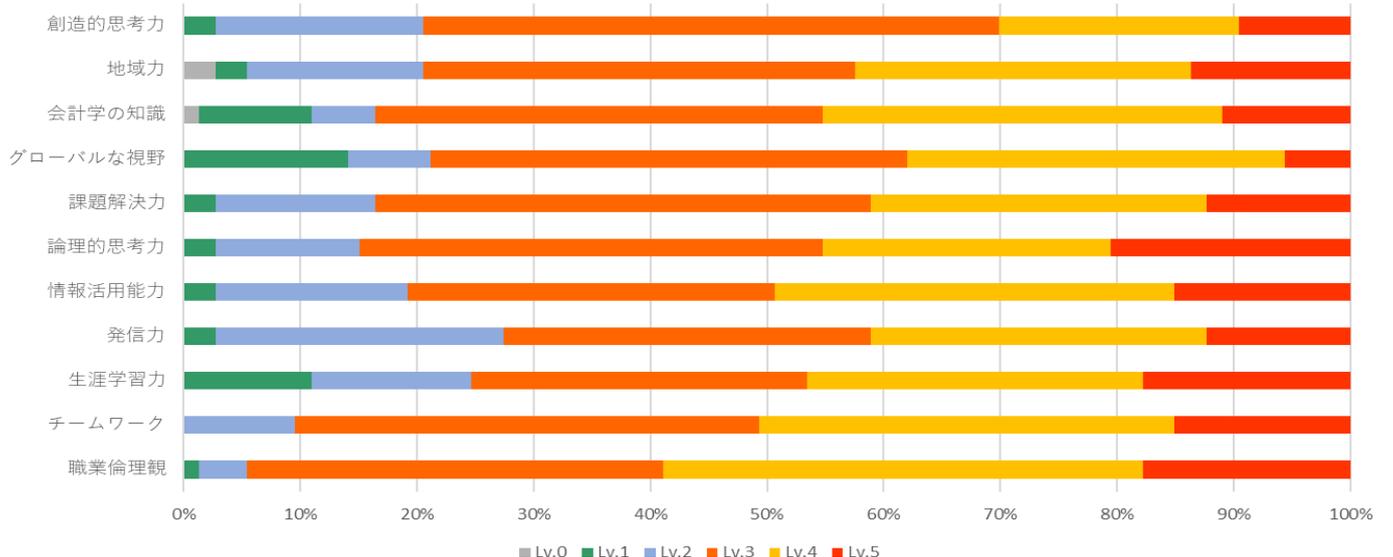
全体 (179名/187名)



経営 (106名/111名)



会計 (73名/74名)



《所見》

DPに関連する能力をルーブリックの形式で学生自身が自己評価したもの。

4.0を1つの到達目標値として教育プログラム全体を構成してきたが、総平均値は3.37と前年度(3.45)より0.08ポイント下がった。経営学科と会計学科を比較すると、学科の特性がよく表れた形になった。会計学科では、将来に対して明確な目標を立てて学修に取り組んでいる学生が多いため、早期から「生涯学習力」の重要性を理解し、また簿記の勉強を通して、論理的な思考力が養われていると実感していると考えられる。実際に論理的思考力は昨年度(3.18)から0.3ポイントupしている。「会計学の知識」は前年度(3.53)から0.26ポイント下がり、3.27であった。しかし、日商簿記1級合格率も2020年度卒業生15.3%に対し、2021年度卒業生は29.1%、税理士科目の簿記論合格率は2020年度卒業生13.9%に対し、2021年度卒業生は20.3%と共に上昇しており、資格取得から捉えた学修成果は上がっていると言える。

また経営学科については、「地域力」「創造的思考力」「グローバルな視野」「課題解決力」が会計学科よりポイントが高かった。経営学科は、ゼミ内で地域へのフィールドワークやビジネスにおける課題解決に向けた取り組みをおこなっており、また1年次より積極的に課外教育プログラムに参加している学生も多い。企業や地域との接触の機会に比例し、これらのスキルが養っていると実感した学生が多いと考えられる。

「情報活用能力」が昨年度から0.18ポイント下がったことは課題である。Society 5.0、アフターコロナで社会が急速に変化していく中で、様々な課題解決を行っていくためには、あふれる情報から必要なものを見つけたり、共有したりするスキルは必須となる。「情報」への苦手意識の克服のためにも、授業運営等で学生が多くの情報に触れ、それらを取捨選択する場面を増やし“情報活用に慣れる”ことが必要である。また、情報機器に触れる機会も多く設け、基本的なデジタルリテラシーの向上も併せて行っていく必要がある。